

## 高齢糖尿病患者の日常生活に対して家族が実施しているサポート

遠藤玲奈<sup>1)</sup>、金子奈未<sup>1)</sup>、高橋智美<sup>1)</sup>

1) 新潟医療福祉大学 健康科学部 看護科

【背景】平成23年度の我が国の糖尿病患者数は270万人で、その内75歳以上の患者数は78万7千人である。平成19年の国民健康・栄養調査では、糖尿病が強く疑われる人とその可能性が否定できない人は合わせて2,210万人と推定され、60歳以上の男性の4割、女性の3割以上がこれらに該当し、高齢糖尿病患者は増加傾向にあると推察できる。糖尿病患者は、長期にわたる自己管理を根気強く続けていく必要がある。また、治療を継続するためには周囲の協力者からのサポートが必要であり、一番身近な協力者として考えられるのは家族である。家族と同居している高齢糖尿病患者は独居の者よりも摂取カロリー比が低く、家族サポートが高齢糖尿病患者の食事療法や自己管理に影響している可能性があるという研究報告がある。しかし実際に高齢糖尿病患者の日常生活に対する家族の行っているサポートとはどのようなものなのか、その実態についての先行研究はほとんどない。そのため、高齢糖尿病患者の日常生活に対して家族が実施しているサポートの実態を調査し、そのサポート内容を知る。

### 【方法】

- 研究デザイン：記述的デザイン 実態調査
  - 調査方法；プライバシーが保護できる個室で、インタビューガイドに基づく半構造化面接を個々に1人1回20～30分程度実施する。
  - 分析方法；質的帰納法
  - 調査対象；研究協力の得られた在宅で生活している高齢糖尿病患者の家族3名。
  - 調査時期；平成28年8月
- 倫理的配慮
 

得られたデータは匿名性の確保に努め、逐語録は整理番号制とし、番号個人が特定されないようにした。本学倫理審査委員会を受審し、承認(17707-160701)を得た。
- 用語の定義
  - ・高齢糖尿病患者：65歳以上の糖尿病が強く疑われている者または糖尿病と診断されている者。
  - ・家族サポート：血縁のみでなく嫁や、兄弟の配偶者、義理の子どもなどを含む同居している人が高齢糖尿病患者に対して行っているサポート。

【結果】研究対象者は男性1名、女性2名、年齢は40歳代から60歳代で、就業者2名、未就業者1名であった。介護を要する頻度は週に3日から毎日であり、3名とも副介護者が存在した。分析の結果、家族が実施しているサポートのコード数は81で、これらは23の小カテゴリーと6の中カテゴリー、2の大カテゴリーに分類された。

表1. 家族が実施している高齢糖尿病患者の日常生活サポート

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー
日常生活にかかるサポート	加齢に伴う身体機能低下へのサポート	食事の準備と配膳 (4)
		水分補給の促進 (2)
		排泄自働具活用 (3)
		安全安楽な入浴 (3)
		季節・状況に応じた更衣 (3)
		日常生活活動に応じた移動 (3)
		異い物と掃除 (4)
		本人の力を生かした生活の推進 (6)
		緊急時の連絡方法の決定 (3)
		不安・葛藤に対する精神的サポート
社会資源の活用と活用へのサポート	高齢者の思いの推察に基づく対応 (4)	
	家以外の施設・地域のサロンの利用 (4)	
医行為にかかわるサポート	食事療法遵守のためのサポート	おやつ管理 (2)
		食事内容と盛り付けの工夫 (4)
		塩分制限遵守のための工夫 (3)
	治療へのサポート	内服確認 (3)
		薬の管理 (5)
		インスリン注射の代行 (2)
		緊急時の医療行為 (2)
	悪化の早期発見のための観察	食事量の観察 (7)
		糖尿病の症状観察 (3)
		糖尿病合併症の症状観察 (5)

また、分類過程で抽出された家族が必要としているサポートのコード数は11で、5の小カテゴリーと3の中カテゴリー、1の大カテゴリーに分類された。

表2. 家族が必要とする高齢糖尿病患者の日常生活サポート

大カテゴリー	中カテゴリー	小カテゴリー
QOL向上にかかるサポート	ノーマライゼーション意識の向上	バリアフリーの促進
		高齢者・障がい者に対するにやさしい姿勢 (3)
	より活用しやすい社会システムへの改善	障がい者駐車場使用マナーの遵守
		ミルクタイムに準ずる有給介護休暇制度
事故防止にかかるサポート	他者への糖尿病教育 (5)	

【考察】家族が実施している日常生活にかかるサポートでは、社会資源を活用し、身体機能低下や精神的サポートを行っていた。加齢に伴う身体機能の低下や疾患により生ずる葛藤に対し、高齢者の持つ力や思いを推察してサポートできているのは、長くともに生活した家族であるが所以と推察する。また医行為にかかわるサポートでは、食事療法遵守のためのサポートや症状観察等を行っていた。高齢糖尿病患者をサポートするために、家族は糖尿病の症状や治療、合併症等の知識や医療技術も必要とする。そのため、看護師は正しい知識と正確な技術を家族が取得できるような支援と評価を行い、効果的なサポートが行えるよう指導を進める必要がある。更に本調査過程では、家族が必要としているQOL向上にかかるサポートの内容も明らかになった。この背景は、核家族世帯の増加から高齢者や障害者との交流が希薄になり、高齢者や障害者と身近に接する機会が減ったことが一因であると推察できる。高齢化が進み地域包括ケアシステムが構築される中で、在宅介護者の負担を軽減することは重要である。そのため、今後は労働基準法の育児時間に準ずる短時間の介護有給休暇が取得できるシステム等も必要になると考える。

### 【結論】

本研究では、家族は日常生活にかかるサポートと医行為にかかわるサポートを実施していることが明らかになった。本研究の限界は調査対象数が少ないことである。そのため今後は調査数を増やし更に検証を進めていきたい。